

## ■シラバス

### 授業の目標 Course Objectives

- ・人間行動・心理と文化の関係について、国際比較研究や地域比較研究などの知見を通じて学ぶ
- ・集団や対人関係や自己に関わる心理過程や行動パターンの文化差とその原因に焦点を当てる
- ・本年度は、現在勃興しつつある、社会行動の文化差に対する社会生態学的アプローチを重点的に取り上げる

### 到達目標 Course Goals

- ・文化心理学と比較文化心理学に関する基礎的知識を獲得する
- ・文化と社会が人間の心理過程と行動に与えるインパクトとそのメカニズムを理解する
- ・異なる集団・異なる社会に対する相対性視点を獲得する
- ・自らが所属する集団や社会について、さらには自分自身について、他者の立場から見る視点を養う

### 授業計画 Course Schedule

- 1) イントロダクション、2)3)文化心理学・比較文化心理学の目的・概念・方法、4)文化と自己(1):自己概念と文化的自己観、5)文化と自己(2):自己高揚・自己批判、6)文化と自己(3):適応論的アプローチ・信頼の文化差、7)文化と自己(4):自尊心と適応、8)文化と表情、9)文化と思考、10)集団主義と個人主義(1):従来の研究、11)集団主義と個人主義(2):神話の崩壊と二つの集団主義モデル、12)まとめと質疑応答  
授業中に実験の実習を行う。

### 成績評価の基準と方法 Grading System

最終試験 40 点+読書課題 30 点+実験・調査参加 30 点=100 点。ディスカッションへの積極的参加を期待する。

## ■授業の取組・工夫等について

平成 22 年度前期の授業評価で良い学生評価を受けたとのご連絡をいただきました。大変うれしいことで、ありがとうございます。実は平成 16 年度にもほぼ同内容の講義で同様の文書の執筆を依頼されておりますため、下記の内容に新鮮みはないかもしれませんが、ご容赦下さい。

### ①授業の目的・内容

国際比較研究を中心とした、比較文化的手法を用いた社会心理学と文化心理学の研究を概説した。特に、個人の社会行動や社会心理過程などの文化差について紹介すると共に、マイクロ=マクロ理論の観点から、そうした文化差が生じる社会生態学的環境要因の解明に焦点をあてた。この分野の研究史・方法論を概説するとともに、最新の研究成果や論点を紹介した。

### ②授業実施上の取組・工夫

- 1) 毎回の講義で、用いたスライド全てを配布資料形式で配布した。その結果ノート取りに注意と時間を取られることなく講義内容に集中してもらえたのではないかと感じている。
- 2) 授業中に実験やアンケート調査などの実習を行い、そのデータを学生自身に分析させたり、あるいは講師が授業終了後に分析し、後日分析結果をフィードバックしたりすることにより、この分野の研究が行われるプロセスを疑似体験させた。
- 3) すでに確定している知見ばかりではなく、過去数年間に新たに発見された現象、現在論争が行われており評価が確定していない理論、などを積極的に紹介することにより、科学的知識がどのように深められていくのかについてのプロセスの一端を伝えた。

- 4) 学生にとって身近な話題、それも特に学生にとって「耳の痛い話」を、講義内容と絡めつつ事例として積極的に用いた。この挑発により、学生を感情的にインボルブさせることを心がけた。
- 5) 本年度からの新たな試みとして、講義の最後にできるだけ多くの質疑応答の時間を取った。質問者には特製デザインの「発言カード」を手渡し、名前を記入して提出すると最終成績の一部に算入されるとの設定により、発言への動機付けを高めた。すると、非常に的確かつ重要な質問が続出し、しばしば時間切れで中断せざるを得ないほどであった。この質疑応答を通じて、受講生全体の講義内容に対する理解も深まったと思われる。一部の学生からは、「発言者のみへの得点付与は、シャイで発言できない学生への配慮に欠ける」との批判もあったが、「発言者は皆の理解を促進しているという意味で、講義に対する最大の貢献者である」と説明した。

### ③その他、他の教員の授業改善の参考となる事項

私が学部生の時代には、単純なことをわざわざ小難しく言い換えるような自己陶醉型の講義が多く、しばしば怒りを感じていたものです。コミュニケーションは伝わらなくては意味がないとの信念を胸に、「簡単なことを簡単に」「難しいことも簡単に」伝えることを心がけております。

#### ■学生の自由意見（良かったと思う点）

- ・ 毎回先生のお話がおもしろく文化心理学に対する興味が深まりました。課題で読んだ本もおもしろかったです。
- ・ 教授の声もとても聞きやすく、また講義内容や話も非常に面白かった。スライドや配布プリント、解説も適切で、毎回楽しみにしていました。ありがとうございます！（でもテストは怖いです…。）
- ・ 自分が参加した実験の結果報告を受けることで、興味・関心が高まったこと。
- ・ 質疑応答の時間があつたのが良かったと思います。それと授業の中で行われたアンケートの結果が後々発表されるのも良かったです。
- ・ 質疑応答がよかった。質問も解答も、よかった。
- ・ 学生からの質問を積極的に促している点。
- ・ 日本と北米の人種間のことだけではなく、最後には個人の日常的な対人関係レベルにまで言及されており、とても役に立ちました。
- ・ 私たちがどんな質問をしても、先生は「面白い」といつもほめて下さったところ。
- ・ レジュメが配られること。どんな質問に対しても、先生の受け答えが丁寧。授業がおもしろい。
- ・ ポイントを押さえていてわかりやすい授業。実体験に基づいた説明→飽きることなく聞いていられる。スライドを効果的に使っている。
- ・ 集団主義の中でも集団間と集団内比較とで違いがあるなど、今まで知らなかったことをたくさん聞いて良かったです。
- ・ スライドもレジュメを見やすく、説明もすごく解り易くてとても興味深い授業でした。結城先生の授業をもっと受けたいです。
- ・ 大きな教室での授業でしたが、学生に語りかける形式が良かったと思います。
- ・ 教授の人柄が良かった。
- ・ 質問を受けつける時間を取っていた点。
- ・ ・授業の時間内に学生の質疑に回答する時間を設けたこと。・教員の説明が分かりやすかったこと。
- ・ 説明がとてもわかりやすかったです。
- ・ 先生が1人ひとりの質問に丁寧に対応してくれた点。
- ・ 毎回質問の時間があつて良かったです。プリントもわかりやすかったです。内容もとても楽しかったです。
- ・ 質問への対応がわかりやすかった。文化心理学は面白い学問だという熱意が伝わってきた。余談で、外国の写真などを見ることができたのもよかった。
- ・ レジュメが詳しくてわかりやすかったです。
- ・ 非常に明快かつ刺激的な講義でした。
- ・ スライドがみやすい。先生の熱意が伝わってきた。カリスマ感が良いと思います！質問の答え方、話し方がすばらしいと思う。
- ・ 既成の認識を崩そうとする実験（「アメリカ人」≠「個人主義」）等は興味深かった。合意性の過大推

測の実験も面白いと思った。

- ・ 講義と配付資料が非常に論理的かつ明確で分かり易かった。研究に対する熱心さが伝わって来た。
- ・ 難しそうな内容もかみくだいて説明してくれた所がよかった。声がすごくききやすかった。
- ・ 面白い内容かつ、深みのある内容だった。学部の授業でこんなに専門的で内容のある授業は他に少ないと思う。
- ・ レジュメが分かりやすく、レジュメの内容についての補足説明もあったので、理解しやすかった。
- ・ 結城先生の説明はとても親切でよかったです。協力した研究のフィードバックがあったのもよかった。
- ・ わかりやすい説明。おもしろい事例の紹介。
- ・ 先端的な研究を紹介してくれたこと。実験に自分も参加出来たこと。
- ・ 学部生にわかりやすく説明していたと思う。
- ・ 先生の話が興味をひくような工夫してあって、とても楽しめた。
- ・ 教員の説明が分かりやすく、聞き取り易くもあった。
- ・ 先生が男前
- ・ とても説明が分かりやすかったし、内容もおもしろかった。
- ・ 現在行われている実験や調査の内容が紹介されて興味深かった。
- ・ 先生の話がわかりやすく、楽しく授業を聞けた点。現在の研究がどこまで進んでいるのかも含めて、最新の情報を与えてくれた点。質疑応答によって学生の疑問を解消していた点。
- ・ 内容がとてもおもしろかった。たぶんこれから役に立つと思います。(2・3時間で消えてしまうのではなく)
- ・ 授業内で実験参加、&フィードバックがあり、講義内容に自ら参加している感じが良かった。また、質疑応答もありよかったです。講義内容が写真や実際の様子などがわかるもの多くて、楽しかったです。米の大学を実際に見てみたいです。(デカイスタジアムと大学Tをきている人々とか)
- ・ 心理学の先生だからか、単元に入る前のつかみがすごくうまいと思った。発言カードがあることで質問をする大きなきっかけになったと思う。
- ・ 質疑応答がていねいでした。
- ・ 今まで学んだことのない分野の勉強だったので楽しかった。
- ・ 先生の話術が非常にレベルが高い。
- ・ 先生が親切丁寧で、質問の受け答えなどかしこかった。
- ・ 実際の差を知り、その差から生じる行動傾向、その研究手方を知る事で、身近な集団や人を考察するきっかけになった。大いに有益でした。
- ・ 内容は興味深いことが多くて先生の説明もわかりやすくしようとしているのが伝わってきてよかった。また、たまにおもしろい例を示してくれてよかった。
- ・ 質疑応答の時間がほぼ毎回あったところ。私はその機会を活かすことができませんでしたが、理解を深める一助になって良かったです。
- ・ 質問に丁寧に答えてくれていた点。
- ・ ・スライドでわかりやすかった。・実験で表現するからわかりやすかった。
- ・ 授業内容がすごくおもしろかったです。私は行動システム科学講座ではありませんが、こんなことも深く勉強してみたいなと思いました。
- ・ 読書レポートやアンケート調査を評価に入れてくれたのはありがたかったです。
- ・ 文化間の差異だけでなく、その違いがもたらす行動の違いについて、深く勉強できた。
- ・ 説明がわかりやすく、また、学ぶことの意義についても考えさせてくれるような授業であったので、より積極的にこの分野について学ぼうという気になった。個人的には読書課題が好きだった。ただ慢然と読むのではなく、課題を課されることで、より深く読むことができたと思う。
- ・ 説明がとても分かりやすく、内容も面白かった。
- ・ 研究の具体例が多く、概念ばかりの授業より理解しやすかった。授業の始めて、アメリカの学生の話を開けることが面白かった。
- ・ スライドがわかりやすかった。
- ・ 先生が熱心でわかりやすい説明をしていた。アメリカの大学で、大学グッズを着たり買ったりするという情報がおもしろくて興味をもった。
- ・ 毎授業後、質疑応答の時間が設けられていたために、色々な人の考えを聞くことができて良かったです。
- ・ 先生の説明がわかりやすかった。実験に参加できたのもおもしろかった。
- ・ 授業で取ったアンケートが必ずフィードバックされていた。課題図書が授業の理解を助けてくれた。適切な課題だったと思う。
- ・ アンケート結果のフィードバックや、質疑応答の時間が多くあり良かったと思う。
- ・ 文化について詳しく知ることができ、研究や実験からの内容から出されたアイデアが多かったので身

近に感じるような内容で良かったです。

- いろいろなアプローチの研究を知ることができてよかったです。
- 学生の質問への対応が良かった。興味を持たせ方がうまいと思った。
- 日米の比較がとてもわかりやすかった。なるほど、と思うことも多く、おもしろい授業だった。
- 自分が参加した実験の結果がでてその分析などをきくのが楽しかった。
- 文化心理学の一般理論を説明しつつ、実証研究の紹介をしていたこと。
- 菊と刀を読む良い機会になりました。名誉と暴力も面白かったです。
- 興味深いテーマで面白く聞けた。話にユーモアがあって説明も聞きやすかった。
- 大人数を相手にした授業にもかかわらず学生の授業参加を適切に促すなど教員の熱心さが伝わってきた。久しぶりに面白い授業だった。
- 教員のわかりやすい説明と、質疑応答の充実している点。
- 質問にいてねいに答えていた。質問の時間をとっていたこと。内容が面白かったです。
- ・先生自身のアイデアや、学生のアイデア、自分のアイデアを、確認し、知り、理解しようとするチャンスが多分にあったこと。
- 東アジアと北米の文化差等、もともと興味のある分野だったので、そのようなことについて深く勉強できてよかった。
- 文化心理の概観的な知識が知ることができた点。
- 授業の内容に沿って、具体例をたくさん挙げていただいたので、興味を持つことができました。資料の形式もノートを取りやすく、よかったです。質問の時間を取っていただけのも理解に役立ちました。
- 質疑応答の時間の先生の対応が大変よく、質問への返答にとどまらない返答は印象的であった。
- 実験参加し、その結果を知ることができて良かった。読書課題は少し大変だったが、どちらの本もとても面白く、さらに深く勉強したくなった。
- 先生が先徒への発言、質問を促していた点。また、先生も「わからない」ところは「わからない」と述べた上で、関連しそうな話題を提供してくれていたところ。
- 授業内容がとても興味を引くものであり、説明もすばらしかったです。
- 先生の話が大変わかりやすく、かつ刺激的でよかった。